

大学の入口と出口

TOPIC

入試制度の変遷

いつの時代も大学にとって学生の入学は最も大きな行事の一つであるが、入試制度は時代の流れとともに変化し、多様化してきている。

全国的な流れとしては、昭和24年の新制大学の誕生を機に、文部省は受験生の集中を避けるため、また、受験機会の増加のため、入試期間を一期校と二期校に区分けした。山口大学は中国地方では岡山大、島根大とともに一期校であった。(昭和26年度以降は二期校)昭和54年

からは、共通一次学力試験が始まり、大学独自に行う個別学力検査の成績と統合して入学者を選抜することとなったが、全ての国公立大学は一律に5教科7科目を利用することとされていたため、大学の序列化を招く結果となった。その後、平成2年からは大学入試センター試験へと移行され、大学・学部ごとに利用する教科・科目が異なるアラカルト方式を採用している。

現在、山口大学では一般入試(前期日程・後期日程)の他、AO入試、推薦入試、帰国生徒入試、社会人入試、私費外国人留学生入試を実施している。

一般入試では、受験機会の複数化のため、昭和62年から、各大学がA日程グループとB日程グループに分かれて試験を実施する「連続方式」が導入され、山口大学はA日程(経済学部のみA及びB日程)で実施したが、翌年からは、入学者選抜の日程を前期と後期に分離し、それぞれの日程ごとに募集人員を分割する、いわゆる「分離・分割方式」が経済学部で実施された。その後、平成9年には全学部が分離・分割方式へと移行した。



一般入試 合格発表

AO(アドミッション・オフィス)入試	筆記試験中心の選抜方法では見出せない資質を、様々な観点から総合的に評価しようとする目的で、平成13年から実施。各学部・学科・コースの求める学生像に基づき、提出書類、面接、講義等理解力試験を通して、入学志願者の資質を多面的・総合的に評価。入学定員の約1割がAO入試による入学者である。
推薦入試	大学入試センター試験の成績を利用する推薦入試(人文、医、工、共同獣医学部)と、利用しない推薦入試(教育、経済、理、農学部)を実施。
帰国生徒入試	外国の教育機関において学校教育を受ける日本人生徒を受け入れるため、昭和60年から実施。出願書類、小論文及び面接の結果により選抜される。
社会人入試	一度社会に出てから再び大学教育を受けようと考えている社会人を対象とし、昭和61年から実施。出願書類及び学部の定める教科、小論文、面接を総合して選抜される。
私費外国人留学生入試	国際交流等の推進の観点から、昭和58年から実施。平成26年現在、26ヶ国327名の外国人留学生が在籍している。

おいでませ！受験生ーオープンキャンパスー

受験生や進学希望者に、パンフレット等では伝えきれない学内の雰囲気を経験してもらうため、各キャンパスで毎年オープンキャンパスが行われている。ミニ講義、研究室訪問、実験実習体験、在学生との意見交換など、様々なイベントが開催される。平成25年には、県内外から5,300人を超える参加があった。



平成25年のオープンキャンパスの様子

キャリア教育と就職支援

山口大学では、教養教育・専門教育、そして正課外の様々な活動を通じて、自らの未来を切り開くことのできる人材、また、変化の激しい社会に対応しながら成果を出せる人材育成を目指して、キャリア教育と就職支援に力を入れている。

平成25年度からは、全学でキャリア教育を必修化し、1年次と3年次で段階に応じて、自らの将来について考え、学ぶ機会を設けている。また、学生が業界動向や会社・仕事をより深く、よりリアルに理解できるよう、経営者や人事担当者、企業などで活躍する卒業生をキャンパスに迎える学内業界・企業研究会も多く開催している。

就職支援室には、一人ひとりのキャリア形成を支援するため、職員の他、民間企業での経験豊富な就職アドバイザーやキャリア教育を担当する専任教員が常駐し、質問や相談に応じている。



「キャリアと就職」講義風景



学内業界・企業研究会の様子